

# 広報 伊方町

発行所  
伊方町  
愛媛県西宇和郡伊方町湊浦  
〒796-03 ☎伊方局38-0211  
編集  
総務課  
印刷所  
豊豫社  
八幡浜市松柏 ☎22-0144

## 今月の紙面

二面……ヤクルト野球教室  
秋の火災予防運動  
三面……民話と伝説「九町」  
四面……歳時記「文化の日」

# 実りの秋を体験

## 《伊方小が稲刈り学習》



伊方小学校では、農作業を通して物を作り育てる苦労や収穫の喜びを実際に体験し、社会科の授業に役立てようと六年前から宇和町の末光休夫さん所有の休耕田を借りて米作りを行っています。

この学習は、二年生を対象に年二回実施されており、今年六月二十日(月)に田植え、十月二十四日(月)に稲の刈り取り作業を行いました。今回行われた稲刈りにも、二年生全員の六十四名が参加。まず、田んぼ所有者の末光休夫さんに鎌の使い方、稲の刈り取り方の指導を受け、六月に自分達の手で田植えをし成長した稲を一時間あまりで刈り取りました。

子供達は、初めのうちは慣れない手つきで慎重に稲を刈っていました。刈り取りを続けているうちに鎌の使い方も慣れ、手ぎわよく稲を刈り取る様になりました。また中には、田んぼの中を飛びまわるカエルを捕まえようと夢中になる子供達もいました。

以前には、町内各地で見られた田植えや稲の刈り入れ作業も、現在ではほとんど見られなくなっており、子供達にとっては貴重な体験となりました。

伊方小学校では、刈り取った稲を「もちつき大会」に、ワラを「しめなわつくり」に使うことにしています。

# 酒づくり祈願祭

## 杜氏さん35人が参拝



西宇和郡杜氏組合(上田益男組合長)では、冬季の酒づくり祈願祭を十月二十五日、湊浦の八幡神社境内にあるお酒の神様「松尾神社」で行いました。参拝した三十

五人の杜氏さんは、「今年もよいお酒が出来ますように、また、留守中の家内安全を」と手を合わせていました。

松尾神社参拝は蔵入り前の恒例行事。今年も十一月中旬から年末にかけて、遠くは徳島県、香川県、大分県まで出かけ、県内外三十三の酒造場へ百二十人あまりが酒づくりに出かけることになっています。

古い伝統と優秀な技術の基盤のうえにある「伊方杜氏」も最盛期には七百人が酒造りに従事していましたが、現在は酒造業界の再編成や機械設備の近代化で百人ほどに減少しています。

# 道上氏に黄綬褒章

## 町では四人目



秋の褒章で、道上 正氏(仁田之浜57歳)が黄綬褒章を受章しました。

受章。県下では今回の受章者の最年少です。伊方町農協理事、専務をはじめ農業団体の要職を歴任。昭和五十一年九月から伊方町農協組合長、また、昭和六十三年九月から西宇和青果農協組合長として活躍されています。

黄綬褒章は、宮崎市右衛門氏(大浜故人)、田中善吉氏(仁田之浜故人)、高門嘉夫留氏(川永田故人)に次いで町では四人目です。

# 差別をなくする 強調月間

11月11日～12月10日

愛媛県では、昭和六十三年十一月十一日から十二月十日までを「差別をなくする強調月間」と定めています。

この期間中、同和問題解決のため、差別をなくする県民の集いや講演会の実施、啓発資料の配布など各種の行事が実施されます。

県民一人ひとりが人権意識の高揚を図り、差別のない明るい社会をつくりましょう。

# ヤクルト野球教室

## 小・中学生135人が参加



第十三回ヤクルトスワローズ野球教室が十月三十日(日)、伊方中学校グラウンドで開かれました。

この野球教室は、ヤクルトスワローズ後援会が全国の野球少年を対象に昭和五十一年から実施しているものです。当日は好天に恵まれ、町内小中学校の小学生四年生から中学校三年生までの児童生徒百三十五人が参加。ヤクルトスワローズの小谷正勝投手コーチと昨年のセリーグ新人王に輝いた荒井幸雄外野手の指導を受けました。

同教室は午前十時から開かれ、準備運動で体をほぐしたあと、キャッチボール、トスバッティング、打撃練習、打球練習の順で行われ、ボールの握り方、フライの取り方、打撃フォームの基本やピッチングフォームの基本をプロから教りました。



参加した児童生徒たちは約三時間のあいだ、プロ野球選手の一言ひとことに注意深く耳を傾けながら真剣な表情で取り組んでいました。また、参加者には、全員記念の帽子が贈られました。

# 自転車の安全運転を

## 町補導会が街頭指導



町青少年補導会(会長尾崎洋一)では高校生の自転車通学者を対象に、今年二回目の街頭指導を十一月十五日、大

この日は、一時間あまりに三十台の自転車通学生がおり、整備不良車はありませんでしたが無灯火が十五台もありました。(昨年三十三台のうち無灯火八台)

自転車も暗い場所では、ライトをつけなければならぬことになっていきます。無灯火の自転車は、危険がいっぱいです。補導会では、十一月二十一日に三回目を実施、十二月にも一回予定しており、自転車通学生の安全運転を街頭指導することにしています。

# 三三運動会で親睦深める

## 障害者と健常者のふれあい広場

身体障害者と地域住民が共害しに参加・交流することにより、相互の理解と関心を深め、障害者の社会活動への参加と自立を促進することを目的に、十月二十九日(土)、伊方小学校体育館で、障害者と健常者のふれあい広場が実施されました。



同広場は、町身体障害者協会主催、町社会福祉協議会の後援のもと毎年開かれており、今年も、障害者四十名、健常者(婦人会等)百四十名の合わせて百八十名が参加。町保健センターの篠川保健婦と町身体障害者協会の榎尾会長による、「保健事業と福祉」、「地域福祉の進め方」の講話のあと、障害者と健常者が一緒に組んでボールをよせ、二人一組で「ほほよせ」や、「風船割り競争」、「バケツ叩きアメ食い競争」、「ねらいをさだめて」、「玉入れ競争」などのミニ運動会が行われ、楽しい一日を過ごしました。

# いばさらカラス

## 60羽が御用

昨年三月、九町アラカヤ地区に完成した不燃物処理場に大群のカラスが出没し、付近のみかん園を荒らしていた、「いばさらカラス」六十羽が御用となりました。



町では、このカラス対策として有害鳥獣捕獲の許可を受け、今までに八幡浜猟友会伊方支部にお願いし鉄砲による駆除やガス鉄砲設置による撃退などを実施しましたが、思うような成果が上がりず良い方法はないものと検討して

いました。カラス捕獲檻による駆除で成果を上げていることを知り、京都府福知山市からカラス捕獲檻の資料を取り寄せ、たて五メートル、横三メートル、高さ二メートルの捕獲檻を作成しました。十月二十七日、えさを入れて現地に設置、十一月四日四十羽、十一月十四日には二十羽を捕獲しました。大きな成果のあったカラス捕獲檻は、みかん採取の終わる十二月末頃まで設置することにしています。

# その火 その時 すぐ始末!

## 秋の火災予防運動 11月26日~12月2日

十一月二十六日から十二月二日まで「秋の全国火災予防運動」が行われます。今年はその火・その時・すぐ始末!が統一標語です。この運動は、火気が多く使用され、また、年末の多忙時期を迎えるに当たり、国民一人一人の防火意識の向上を図り、火災の発生を防ぐとともに、火災による人命や財産の損失を防止しようとするものです。

### 今年一件

今年(十月末日現在)、第二分署で発生した火災は四件でその内、町内で発生した火災は、六月に九町山中に墜落した航空機火災一件です。火災の原因別では、台所や調理場でのこんろの火がてんぷら油に引火したものが四件中、三件となっています。また、全国では昭和六十二年中に五万八千八百三十七件中、ほぼ九分に一件の割合で発生したことになります。

出火原因の上位はこんろ、たばこ、たき火、放火、放火の疑い、火遊びとなっており、長年首位を占めていた「たばこ」が大幅に減少して、「こんろ」による火災が二十八年ぶりにトップになっています。八幡浜地区施設事務組合消防本部がまとめた消防年報によると、過去三ヶ年の八西地区の火災発生件数は表のとおりです。また、今年の十月迄に二十四件(うち建物火災二十件)の火災が発生し、そのうち「こんろ」によるものが八件となっています。



	火災発生件数		
	昭和60年	昭和61年	昭和62年
三崎町	3	4	2
瀬戸町	2	5	1
伊方町	3	6	2
保内町	11	2	1
三瓶町	5	2	2
八幡浜市	22	17	15
計	46	36	23

### 火の用心七つのポイント

- 1 寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。
- 2 子供は、マッチやライターで遊ばせない。
- 3 風の強いときは、たき火をしない。
- 4 天ぷらを揚げるときは、その場をはなれない。
- 5 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- 6 風呂の空だきをしない。
- 7 ストープには、燃えやすいものを近づけない。

### 増えている天ぷら油火災

天ぷら油火災の原因のひとつは「その場を離れた」ことにあるのです。とくに近頃は冷凍食品などの普及で、「天ぷら油」による火災は「夕食時」というこれまでの常識を破り、朝食や昼食時、さらには深夜の時間帯にも天ぷら油火災が発生し年々増加しています。十分注意して下さい。

### 模擬火災演習

消防団では、全国火災予防運動期間中の十二月一日(木)、模擬火災演習を行います。早朝、町内一斉にサイレンを鳴らし消防団員が出動します。で本場の火災と間違わないようして下さい。また、演習地付近の皆様には、早朝から大変ご迷惑をおかけしますがご協力をお願いします。

# 民話と伝説

取材先/九町 補作/岡村豊  
挿絵/山本一路(湊浦)

## 新しい家族

### 夫婦で子育て ⑭

「うちの子のことは私が一番よく知っています」と言っている父親や母親がいます。楽観的な表情が特徴です。

NHKが昭和六十二年八月に実施した「中学生・高校生への生活と意識」調査があります。全国の中学・高校生約千五百人と、その父親と母親を対象にしたものです。調査の内容は学校のこと、家庭のこと、友人のこと、自分の所有品のことなど多方面にわたっています。同じ質問を子供と、父親、母親に別々にして三つ

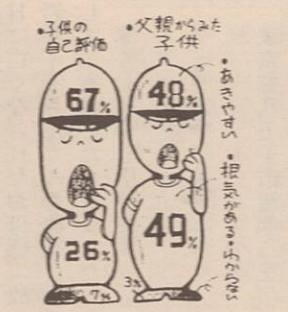
### 親は子供のことを知っているか

「あきやすいほう」か、それとも「根気があるほう」だと思いますか、というのがあります。生徒たちの回答は約二六％は自分を根気があると考え、約六七％はあきやすいと考えていました。残り七％はわからないという回答です。

また狸の話です。狸といえは狐、狐といえは狸といわれるように、昔から日本人の心に一番近い動物じやろうがな。日本中のあちこちを棲みかとしてきた狸と狐。ところが面白いことに、瀬戸内海をはさんで、広島や岡山の方では狸が少ないのに、この四国は狸王国といわれるほどの狸どころです。

「あなたのお子さんはどうですか」という形式で、同じ質問を父親と母親にしました。父親の回答は、「うちの子は根気があるほうだ」が四九％、「あきやすいほうだ」が四八％でした。母親の回答もよく似ています。

NHKの調査によると、この中学生、高校生は現学年になつてから四か月の間に、約四〇％が先生から体罰を受けています。ゲンコツでなぐられる、平手でなぐられる、長時間正座をさせられるのが主なものです。足でけられる、竹刀でなぐられる、ほほをつ



「自分勝手」が五三％でした。父親のわが子像は前者が六四％、後者が三三％、母親は六六％と三一％でした。親たちは明らかに子供を思いやりにあると判断していることが多いのです。子供が自分自身のことをどう考えているのか、どんなことで悩んでいるかに気がついていない親がいるのです。

ねられる、などというのがあります。そして子供がこのような体罰を受けたことを知っている親はごくわずかしかいないのです。子供が話さないからでしょう。しかし親が少し注意していればなんとなくわかるのではないのでしょうか。親と子の距離は、親が考えている以上に離れているのです。

東京都立大学・心理学 詫摩 武俊

## 松葉の笠松大明神

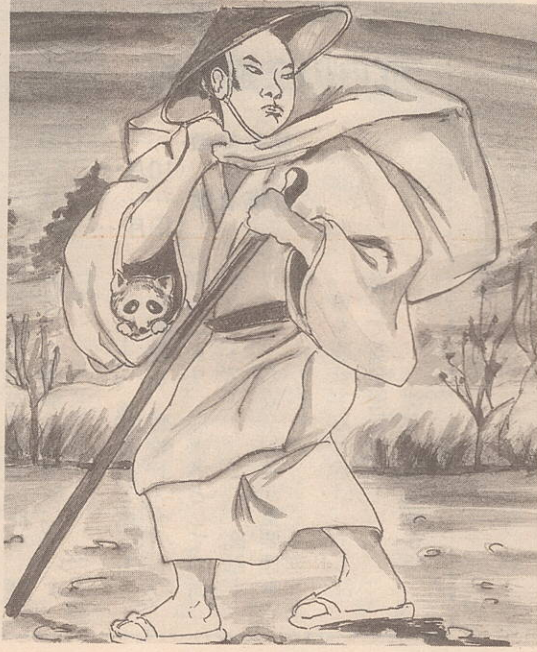
九町

それだけに、狸に関する民話や伝説には事欠きませない。この伊予にも、踊りの好きな喜左衛門狸、ソロバンが好きなき平狸、安産と縁結びの効きめがあると言われる八股のお袖狸など、どうしても憎めなお狸さんの話がいろいろある。ある日のこと、九町のお庄屋様が何ぞ用があつてな、松山に行つての帰り道のことだ

は造り酒屋をしようたので、酒を盗み飲んでみたらあんまりうもて、狸はとうとうこの九町に棲みついてもうたがじゃいわい。

この人が天折したり、相いっいで近所の人々がまた天折したそうです。これは狸の怨念かもしれない、こりやどごせせないけんぜよと冗談をいったりしりました。

軒の人らでお講組をつくつております。昔、お庄屋様かたは大綱をしようなはつたので、浜の網納屋で納屋衆が網を繕つておつたら、狸が出てきたので、網をまじたり、網を被せたりして捕えたいいます。大の男が前足を背中に担いだら、尾ばちが地面につかえるような大狸じやつたいいします。



みなで捕えた狸を料理して、狸汁を炊いて食べたところが、食つた者は次々と天折してしまつたという話も漏れ聞きます。昔、九町池の上の方にいるがじゃが、芝の首いうところ、「金平さん」を祀つて、みながお詣りに行きよつたがじゃが、今あれはどなつたのう。狸は今でも大きな神通力をもつと信じられ、人を化かしたりもするけれど、狸の話の最後には笑わせてくれます。遠い昔に人が狸と手を結んで、狐どもを海の向こうに追い出したのかもしれない。協力者：上田 礎氏(九町西)

## 伸びよう 伸ばそう 青少年



あなたのまちで わたしのまちで

11月は全国青少年健全育成強調月間

## 健康の窓

健康の窓は、皆さんが開けなければなりません。保健センターでは、そのお手伝いをしたいと考えています。

### 高齢社会に 家庭看護学級 思う

【Part2】

私達のまわりに、老人の住みやすい社会づくりを願つて各種老人保健、福祉施設があります。センターで取り組んでいる家庭看護学級もその一つですが、七・八年前は「寝たきり老人の介護」をどのようにするかという目的で始まりましたが、現在は「高齢化社会を婦人の問題として受けとめ、その中で婦人自身の生き方を問い、老人の住みやすい社会づくり」についてもとりあげ、学級生自身が、主体的に参加する学習方法をとり入れるなど、目的も内容も少しずつ変わってきました。

老人のことを考えた福祉とか、お世話とはどんなことなのか、お話を聞きました。老人から生の声を聞き、その中から老人の生き方を学び、どのようなお世話が望ましいのかというところを知り、誰にも訪れる老いに対する心準備が必要だ。そんなことをこの学級では重要視しています。学級生はわずか二十名余りですが、各地区二十名程度の参加者がいます。〔四回目の家庭看護学級より〕 去る十月五日に家庭看護学級では、地域福祉をすすめる会会長の稲葉峯雄先生を講師に「私達の老後、私達の生き方」のテーマのもとに、座談会方式でおはなしがすすめられました。まずは、学級生自身の家族の状況、老人とのふれあいの現状など報告しあい、先生のお話の中につりこまれ、みんなが「思い」をぶつきました。出席者は、いずれも五十歳代の婦人ばかりで、もうこの年になると、どちらが先に死ぬかということも日常茶飯話の話題となり「先に死んだ方が得」ということに落着くというところが、アチコチから出てきました。

〔出席者の声から〕

「うちは老人が二人いるが、いつも一緒にいると嫌なこともあるが、歩きぶりなど見ていると、いとおしくなり世話をあげようと思ふ」 「生まれ育つた亀浦が良いので亀浦は離れたくない」 「親はとも口達者でーでも親を大事にする自分も大事にしてもらえたい」ということを聞いているのでお世話することを苦痛には思わない。先生からは、とても多くのことを学びました。今後ますます人口の高齢化が進み、スーパーアールド(八十歳以上の老人)でしよう。七十歳をすぎた老人が九十歳の老人のお世話をすることも珍しくなくなる時代もすでに来ています。

歳時記

文化の日

11月3日は文化の日。昭和21年(1946年)のこの日に新憲法が公布され、日本が戦争放棄宣言をしたのを記念して、平和への意志を基礎とした文化をすすめるために制定された国民の祝日です。

この日は昔の明治節と同じ日なので、ご年配の方の中には、明治時代に文明開化が始まったのになんだ日と思っている方もいるようです。

文化の日を中心に、文化勲章の授与式、芸術祭、国民体育大会などが行われるほか、各地でさまざまな行事が催されます。

ところで、文化とは何かと聞かれるとむずかしいのですが、この言葉はなんとなく快い響きをもっているのだから、わたしたちの身の回りには文化住宅、文化包丁、文化鍋など、文化という言葉がはんなりしたことがあります。

そして、最近では第三の文化時代ともいわれています。まず明治維新の文明開化、次に戦後の文化国家建設、そして、いまは経済優先から文化優先への時代へ、というわけです。

それにしても、ゆとりがなくては文化どころではありません。11月は「ゆとり創造月間」です。

昭和60年10月15日の経済対策閣僚会議で、内需拡大に関する対策として週休2日制普及のために、11月を「ゆとり創造月間」とすることが決められました。

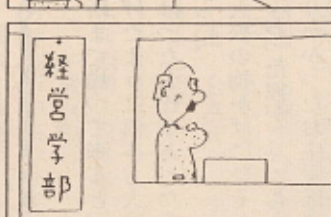
この期間に全国縦断ゆとりシンポジウムが主要都市で開催されます。



東京八王子市錦水二二〇四一七にお住いの宮崎フク江さん(中之浜出身)から一万円。大阪府西成区津守三丁目五二八にお住いの高石元重さん(豊之浦出身)から一万円。神戸市灘区深田町三丁目一三三にお住いの武内鶴夫さん(久保出身)から一万円。それぞれ広報編集費用にご寄付いただきました。紙上から厚くお礼申し上げます。

さわやか君

西村 宗



伊方衛生社 代表者 大黒 実 (TEL 三八〇三三九)

伊方安全衛生社 代表者 大通福富 (TEL 三八〇三二〇)

し尿処理施設は、一市二町(八幡浜市・保内町・伊方町)で八西衛生事務組合を設立し、保内町神越地区に設置し、管理運営されており、昭和六十二年度伊方町の負担実績は、四千二百八千円でし尿が決められています。みなさんの家庭の生し尿や浄化槽汚泥は、業者のバキューンカーによってし尿処理場へ運ばれ、処理されます。このし尿処理施設は、日量五十二t(キロリットル)の処理能力を有し、一市二町の搬入量がそれぞれ定められ(伊方町は日量九t)、毎日の受入量が決められています。そこで、みなさんが業者に依頼するときは、必ず次の事項を守ってし尿処理施設の効率的な利用をはかり、運営費の節減に協力して下さい。1、汲み取りを必要とする場合は、十日二十日程度の余裕をみて依頼してください。2、年間を通じて、集中する七月八月及び十一月十月は、できるだけ早目にし尿処理施設の保守点検は、入槽により年四回以上定期的に行うことが法律で義務づけられており、又、浄化槽汚泥も年一回以上清掃(全バッキは二回以上)することが定められております。伊方町認可の汲み取り清掃業者は、次のとおりです。伊方安全衛生社 代表者 大通福富 (TEL 三八〇三二〇) 伊方衛生社 代表者 大黒 実 (TEL 三八〇三三九)

し尿汲み取りと浄化槽の清掃について

町内の交通事故 (11月1日現在)

Table with 2 columns: Category (発生件数, 負傷者数) and Value (69件, 21人).

高齢者の人口増加に伴い、高齢者の交通事故が増加しています。これまで、被害者の立場にあった高齢者も、高齢ドライバーの増加により、加害者としての面がクローズアップされ、高齢ドライバーの安全対策が重要性を増しております。車を運転するときは、よく注意して安全運転を。伊方・町見駐在所

まごころ銀行

二見の岩井 正さんから三十万円。岩井さんは九月十六日に亡くなられたお母様(故岩井イセさん)の香典返しとしてご寄付いただきました。厚くお礼申し上げます。

お礼

人の動き

お誕生おめでとう よい子に育ってください 昭和63年9月1日 9月30日 保護者 続柄 児名

人口 8,381人 (男4,068人(+6人) (+10人) 女4,313人(+4人))

えんむすび 昭和63年9月1日 9月30日 氏名 本籍地

死亡者 年齢 住所

人権コーナー

人権は 未来へ続く 合い言葉 谷口リ工(水ヶ浦小六年) この標語は、昨年度町人権擁護推進協議会が募集した人権作品の標語の部門で「教育委員長賞」に選ばれました。

第四十回 人権週間 昭和六十三年度啓発活動重点目標 社会の国際化と人権 世界人権宣言四十周年 毎年、十二月四日から十日までの一週間は人権週間です。人権週間は、国民一人ひとりが「人権」というものを再認識し、また、自己の行為によって他人の人権を侵していないか反省してみよう。私たちが豊かな日常生活を営むためには、お互いの立場を尊重し、自分の権利ばかりを主張することのないよう心がけなければなりません。今年の人権週間では「国際化にふさわしい人権意識を育てよう」「いじめ、体罰の根を絶とう」「部落差別をなくそう」の五項目を強調事項としております。差別、いやがらせ、家庭問題などでお困りの方は、お近くの人権擁護委員か法務局またはその支局へ御相談ください。相談は無料で秘密は固く守られます。なお、伊方町の人権擁護委員は、次の方々です。 小川文一郎 TEL 三八〇六〇七 二見 岩井 正 TEL 三九〇一五七 湊浦